

令和 3 年度教育課程研究指定校事業実施計画書  
 — 研究課題 1 高等学校 —

都道府県・指定都市番号	43	都道府県・指定都市名	熊本県
-------------	----	------------	-----

公立・国立 (○で囲む)

1 研究指定校の概要

ふりがな 学 校 名	くもとけんりつあまくさたくしんこうとうがっこう まりんこうしや 熊本県立天草拓心高等学校 (マリン校舎)				ふりがな 校長氏名	なかむら ようすけ 中村 洋介
所 在 地	〒863-2507 熊本県 天草郡 苓北町 富岡 3757 番地 電話 0969-35-1155 FAX 0969-35-2326 E-mail amakusatakushin-h@pref.kumamoto.lg.jp					
設置する 課程 (R3.4.1 見込)	全日制課程				(R3.4.1 見込。臨時的任用の者は常勤の者のみ含む) 教員数 27 名	
生 徒 数 (R3.4.1 見込)					[調査研究にかかわる教科等の教員数]	
学 科 名	1 年	2 年	3 年	4 年	計	
普通科 総合コース	8	1	13		22	
海洋科学科	23	38	26		87	
特記事項	各学科 2 年次でコース並びに、類型・系列に分かれる。					

2 研究主題等

教科等名	水 産	教科課題番号等	1
学校における 研究主題	主体的に諸課題の解決に取り組む資質・能力を備えた生徒の育成に向けた研究 ～これからの水産教育に資する学習指導と評価方法の在り方について～		

3 令和 2 年度の成果と課題

<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教育課程概要表として、学習体系図を作成し、学習内容を「1 年次の基礎、2 年次の活用、3 年次の応用」とし、本校の学科・学年を水産科目の関連性や系統性を整理することで、新たな教育活動の展開を確認することができた。</li> <li>○学習指導計画概要表となる学習系統図を作成し、科目別の学習内容を表にまとめることで、学年ごとの学習要素が可視化され、他科目との関連性や系統性を意識しやすくなった。</li> <li>○学習の進め方を工夫することで、思考力・判断力・表現力を育成でき、「主体的・対話的で深い学び」につながる学習指導ができた。また、思考力・判断力・表現力などの変容の結果を個人に返すことで、少しでも自分の学びに気づくことができた。</li> <li>○研究テーマの一つである「地域資源を活用し、地域産業界と連携した実践的・体験的な学習活動の展開」学習の実践については、コロナ禍でインターンシップや交流活動、聞き取り調査等ほとんど実施できなかったが、「Sea 級グルメ」については、「キビナゴのアヒージョ缶詰」を開発し、「海宝のアヒージョ」と命名し、小学生への出前授業については可能な範囲で実施した。また、商品を地域の店舗や Web で販売することで、流通の過程を体験的に学ぶことができた。さらに、アンケート調査の結果から、生徒は、課題解決能力の成長を実感していることが分かった。</li> </ul> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●年間指導計画や新シラバス等の資料作成が多くなり、活用を定着させるためにも学年別教科指導</li> </ul>
--

計画の作成時期や簡略化等のため工夫が必要である。

- 授業を開始する前に学習目標を持たせ、生徒の興味・関心を高めることで、学習意欲を引き出すように工夫したが、結果は想定したよりも伸びなかった。生徒の伸長に伴い、それ相応の的確な評価が出来るようになるため、アンケートの数値では計れない部分がある。この点を見るための更なる工夫と改善が必要である。

#### 4 令和3年度の研究計画

##### (1) 本年度の研究の重点等

- (1) 「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づく授業に関する研究授業や学習会等の研修を継続し実施することで、学校全体の取組として、職員の共通理解と指導力の向上を図り、より良い授業構築・改善に研究を深めていく。
- (2) 生徒が自分の状況を知るためのポートフォリオについて研究・開発し、実践する。
- (3) 1年次の履修科目「水産海洋基礎」から各コース・系列の系統性を確認すると共に、学習活動全般をポートフォリオ、キャリアパスポート等での学習記録の在り方を研究する。
- (4) 評価の在り方として、単元毎等の折に実施する観点別評価の数値を、各学期の評価や学年末の評定にいかに関与させるか等の具体的手法を示す。
- (5) 令和4年度入学生に対する指導と評価の整理・実践へ向けて準備する。

##### (2) 研究準備

実施期間	取組の計画	期待される効果
令和3年 4～5月	(1) 初年度アンケート結果の確認及び趣旨理解、研究成果に関する研修の実施。 (2) 全教科における年間指導計画や新シラバス等の資料作成要領説明及び提出。 (3) 新学習指導要領に準拠した教育課程の編成について、「教育課程編成の手引き」（熊本県版）を活用し、校内で継続した協議を行う。	○年度当初、現状を把握できる。 ○前年度の研究成果と課題を整理し、研究を進める共通理解を図る。

##### (3) 研究計画

実施時期	研究内容，研究方法，成果の公開等	期待される成果等
1 学期	(1) 校内委員会・職員研修の開催 ・2年次の研究指定校事業に関する協議 ・生徒及び保護者，教職員へのアンケート等による情報収集 (2) 生徒の実態把握（『現在の自分を知る』チェックシート・アンケートの実施） (3) カリキュラム・マネジメントに資する体系的・系統的な水産学習の再検証 ・全体構想の見直し ・作成した教育課程概要表・学習指導計画概要表の確認 (4) 「主体的・対話的で深い学び」を実現した水産科目の学習指導と評価方法の検証 ・生徒の興味・関心を高め、学習意欲を引き出す授業の工夫と充実 ・思考力・判断力・表現力を身に付ける授業の工夫と改善 ・授業で使用する学習記録の作成 ・「評価」の生徒へのフィードバック（個人面談の実施） ・ポートフォリオの在り方に関する検証 ・生徒の学習成果の検証 ・実験・実習等における評価	○現状の把握と目標設定 ○1年次の専門科目との関連づけと興味・関心の醸成 ○授業展開の向上 ○生徒自らが表現できる力を身につける学習場面設定（主体的・対話的で深い学びの設定） ○生徒のメタ認知能力の高揚

	<p>(5) 地域資源を活用し，地域産業界と連携した実践的・体験的な学習活動の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポートフォリオの活用及び検証</li> <li>・「評価」の生徒へのフィードバック（個人面談の実施）</li> </ul> <p>(6) 生徒の実態把握（『現在の自分を知る』チェックシート・単元アンケートの実施）</p> <p>(7) 研究内容の検証</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の学習成果の検証</li> <li>・「評価」をもとにした指導内容の見直し</li> <li>・先進地訪問による研究内容の検証</li> <li>・国立教育政策研究所の「観点別学習状況評価に関する指針」等をもとに検証と実施計画の再調整等</li> </ul>	<p>○育成した資質・能力を確認</p> <p>○指導と評価の一体化と授業改善</p>
2 学期	<p>(1) 生徒の実態把握（『現在の自分を知る』チェックシート・アンケートの実施）</p> <p>(2) 教育課程研究指定校事業推進委員会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の把握と情報共有</li> </ul> <p>(3) 地域資源を活用し，地域産業界と連携した実践的・体験的な学習活動の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の興味・関心を高め，学習意欲を引き出す授業の工夫と充実</li> <li>・ポートフォリオの活用及び検証</li> <li>・「評価」の生徒へのフィードバック（個人面談の実施）</li> </ul> <p>(4) 生徒の実態把握（『現在の自分を知る』チェックシート・単元アンケートの実施）</p> <p>(5) 教育課程研究指定校発表会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域及び関係機関に向けた成果発表会（公開，発信）</li> </ul>	<p>○生徒の自己肯定感の醸成</p> <p>○ホームページ等を利用した事業成果の発信</p>
3 学期	<p>(1) 諸データの整理と研究のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態把握（アンケートの実施と整理）</li> </ul> <p>(2) 2年間を通じた成果と課題</p> <p>(3) 教育課程研究指定校事業研究協議会での報告</p> <p>(4) 報告書の編集及び発行</p> <p>(5) 国立教育政策研究所への報告書送付</p> <p>(6) 関係機関への報告書の送付及び配付</p> <p>(7) 令和4年度入学生に対する指導と評価の整理・実践へ向けての準備。</p>	<p>○事業記録の整理・保存と活用</p> <p>○事業のまとめによる指導方法の検証と確立</p>

## 5 研究のまとめの見通し

<p>(1) 生徒及び保護者，教職員へのアンケート調査を実施（学校評価並びに授業評価等も含む）し，現状を認識するとともに，取組が成果として表れるようにまとめる。</p> <p>(2) 学習の記録やワークシート等による生徒の自己評価や評価者評価並びに，面談による評価と検証を進めることができるようにまとめる。</p> <p>(3) 公開授業・研究授業及び校内研修会における学習指導と評価方法を検証し，他校へも成果を波及させる。</p> <p>(4) 研究状況等を教育課程研究推進委員会で検証し，取組に反映できるようにまとめる。</p>
--

## 6 研究実績

<p>○文部科学省 地域との協働による高等学校教育改革推進事業&lt;プロフェッショナル型（農業），令和元～3年度（本渡校舎）&gt;</p>
---